

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

# 東京教師養成塾通信

発行日 平成 30 年 7 月 7 日  
＜第 2 号＞  
発行元 東京都教職員研修センター  
研修部教育開発課  
電話 03-5802-0318

## 第 3 回講座 「授業づくりの基礎①②」「特別支援学校の教材づくり、実態把握とアセスメント」

5 月 26 日（土）に、単元指導計画作成の考え方や指導方法について学ぶことをねらいとして、第 3 回講座を行いました。

### 【小学校コース】「国語科・道徳科の授業づくりと単元指導計画作成のポイント」

国語では、言語能力の重要性を踏まえた上で、「主体的・対話的で深い学び」の実現や指導計画作成の際のポイントについて説明しました。後半は、塾生が教材「ごんぎつね」を用いて単元の導入時の学習指導案を作成することで、実際の学習指導について考え、よりよい学習指導についての認識を深める取組を実施しました。

道徳では、小・中学校学習指導要領一部改正の概要や道徳教育と特別の教科 道徳との関係について説明を行いました。続いて、学校図書「かがやけ みらい」（小学校 5 年）を出典とする「言葉のおくりもの」を教材に模擬授業を行いました。導入、展開の前半、後半、終末の各段階のねらいや教材の提示、発問の工夫等の解説があり、塾生は指導過程と指導のポイントへの理解を深める活動を行いました。

### 【特別支援学校コース】「特別支援学校の教材づくり、実態把握とアセスメント」

午前は、つばき教育研究所 理事長 宮城 武久 先生を講師に招き、「形の弁別」をテーマに事前課題で作成した教材の使い方についての講義を行いました。午後は、特別支援学校におけるアセスメントを生かした授業づくりをテーマに、教育庁指導部特別支援教育指導課 原島 広樹 主任指導主事を講師に招き、学習指導要領とアセスメントの関連や、アセスメントを生かした授業づくりの実践についての講義を行いました。

### 【塾生の感想より】

- ・国語では言語能力の育成という視点に立って、言葉から考えたり言葉で表現したりする活動を大切にしたい。道徳では、自分ならどうするかという視点ももてるよう、子供の目線に立って指導法を練り、考え、議論し合えるような場と学級の雰囲気をつくっていききたい。
- ・指導におけるスモールステップについて、教材の見方、発達の段階の程度、提示の仕方、言葉掛けのタイミングなど、多くの視点を踏まえて個に応じた対応をする必要があることを学んだ。



－塾生によるグループ協議－



－模擬授業を基にした講義－



－特別支援学校コース「形の弁別」－

## 第 4 回講座 「授業づくりの基礎③④」「特別支援学校の教材づくり、社会性の学習と生活単元学習」

6 月 9 日（土）に、授業づくりの考え方や指導方法について学ぶことをねらいとして、第 4 回講座を行いました。

### 【小学校コース】「社会科・算数科の授業づくりと単元指導計画作成のポイント」

社会科の講座では、初めに新学習指導要領の要点の整理や社会科の目標、学年ごとの指導内容等について説明しました。次に小学校第 4 学年「ごみのしまつと再利用」を題材に学習問題（板書、発問）をつくる授業の演習を行いました。塾生は、学習問題に到達させるために、提示する資料の順番を決め、どのような学習活動を行うかを考え、グループ演習を行いました。

算数科の講座では、全体を通して、算数の 1 時間の授業の構成や算数的活動が思考力・表現力等を高めるものであることについての説明を行いました。また、ものさしや三角定規、コンパスといった教具の正しい使用方法や、演算と単位といった基礎知識について理解を深める場もあり、塾生は認識を新たにしていました。

### 【特別支援学校コース】「特別支援学校の教材づくり、社会性の学習と生活単元学習」

午前は特別支援学校の教材づくりをテーマに、元明治学院大学特命教授 吉瀬 正則 先生を講師に招き、手作り教材に係るビデオの視聴や実際の教材の使い方についての講義を行いました。午後は東京教師養成塾教授による社会性の学習と生活単元学習についての講義を行い、塾生はメモを取りながら真剣に受講していました。

### 【塾生の感想より】

- ・社会科では、単元を通して児童の興味・関心をもたせることができる導入の工夫や、児童が学びたいと思える学習問題の提示、板書のレイアウトや資料の工夫など、様々な視点から考える必要があることを学んだ。
- ・算数科では、学習内容と日常のこととの関連付けや意味付けを行っていくことで、児童が主体的に問題に取り組もうとする態度を育成できることを学んだ。
- ・教材を用いて、児童とコミュニケーションを図ることを大切にしていきたい。生活単元学習と社会性の学習では、子供の「自発性」を大切にすることが理解できた。



－社会科のグループごとの発表－



－用具の使い方について－



－特別支援学校コース教材づくり－

【連載シリーズ コラム②】

◆ 授業づくりのポイント①

—教科等の特性、学習指導案の作成—

◆ 東京教師養成塾教授 味村 和行

入塾式から2か月が経ちました。この間、塾生は教師養成指定校で配属された学級の児童との関係づくりを行うとともに、教師としての職務を、体験を通して学んでいるところです。その中でも塾生にとって最も大きなことは、自ら教材研究を行って学習指導案をつくり、授業を行うことでしょう。先月から、全員が授業研究を行っています。授業後の協議会では、塾生に対して指定校、大学、養成塾の三者からの指導があり、課題を明確にして今後に向けての方向性を見いだしたところです。

○ 教科等の特性の理解

学習指導要領には、各教科等の目標があり、内容も示されています。そして、それぞれの教科等の見方・考え方を働かせて学習活動を行い、教科の特性に応じた資質・能力を育成することを目指しています。また、内容に関わって、どのような知識や技能を身に付けさせるのか、思考力・判断力・表現力を育成するのかといった指導の根本的なことも示されています。よりよい指導計画を作成したり質の高い授業を行ったためには、教科等のもっている特性を理解することが欠かせません。そのため、学習指導要領をよく読み込んで、授業づくりを行う必要があります。

○ 授業づくり

学習指導案には、単元の目標、評価規準、指導観（単元観、児童観、教材観）、指導計画と評価計画など、本時の授業づくりを考えるときに基盤となる事柄を記述します。その際、養成塾から塾生に配布してある小冊子「授業づくりを考える」は、各教科等の特性を踏まえ、具体的な学習指導案作成に向けた資料として活用されています。

本時の授業づくりでは、本時の目標を達成させるのにふさわしい学習活動を設定することが大切になります。各教科等における「主体的・対話的で深い学び」や「見方・考え方を働かせる」という場の設定を意図的に計画していきます。実際に授業に臨む前には、児童の実態や予想される反応を考えて発問計画を立てたり、教材提示の仕方や学習形態の工夫など、学習効果を高めたりするための方法を考えます。これらのことがよりよい授業づくりにつながっています。

塾生は、今後も各指定校において実践を積み重ねていくことになります。養成塾では、教科等における特性の理解を深めさせるとともに、児童一人一人のよさを引き出す授業実践が行えるよう指導に当たってまいります。

【連載シリーズ コラム③】

◆ 児童理解を図る

—共感的理解、具体的なスキルの習得—

◆ 東京教師養成塾教授 近谷 幹男

子供たちにとって楽しく充実した教育活動を展開するためには、指導者は子供一人一人を深く理解するとともに、指導者と子供との信頼関係が必要不可欠です。人間は、信頼する人には素直に心を開き、認めてもらおうと頑張ります。教師たるもの、そういう存在になりたいものです。

東京教師養成塾では、塾生が子供たちと信頼関係を築いていくために、「授業づくりの基礎」、「人権教育」、「特別支援教育」、「いじめ・不登校対策」、「教育相談」、「コミュニケーション能力」などをテーマとする児童理解に関連する多様で幅広い講座を設定しています。

こうした研修センターでの学びを踏まえながら、塾生は教師養成指定校での特別教育実習で実践しています。登校から下校するまで、全ての場面に児童理解を深めるチャンスがあります。形成期では、特に、子供一人一人と関わる時間を多くもつこと、具体的には、子供とよく遊ぶよう指導しています。遊ぶことによって子供のことを知ることになり、子供との距離が縮まります。この関係を信頼関係にまで高めるために、忘れてはならないことがあります。それは、教師としての自覚、意識をもって子供と接することです。学生気分や友達感覚では、関係はできても子供から信頼を得るまでには至りません。遊びながらも、教師として常に安全に配慮し、子供一人一人の言動や友人関係に留意していくことが求められます。そして、時には、遊びの場面であっても、毅然とした態度での指導が必要になる場合もあります。遊びの時間も、教育の場面だという意識をもって取り組むように指導しています。

また、塾生は、年間を通して教師養成指定校において優れた実践をしている先生方の授業や指導を観察できるという環境に恵まれています。よい実践、よい教育を目の当たりにすることは、とても参考になります。指導教員の先生を中心に、優れた先輩・先人の教育実践から学び、吸収する姿勢を大事にさせています。塾生には、子供一人一人の気持ちや願いを共感的・肯定的に受け止めながら、多面的、客観的に理解し、個々の可能性を引き出す教師を目指して、特別教育実習及び講座に取り組ませてまいります。